夕刊

十月二十日　發行

定價　一部金六拾錢　一ヶ月金五拾錢　一箇月金六拾錢　郵稅共金一圓拾錢

發行人　竹本　忠

發行所　磐城新聞社

福島市鍛冶町十六番地

電話五六四番

（日曜祭日翌日休刊）

秋をまさぐる　四

秋山豊穂

自分も今迄幾度か月を仰いだことであつた。けれどもそれは唯普通の月であつた。幽思も悠久への思慕も見出せない月であつた。我々の師は、先人達は、唯堅苦しい人の道と、理窟と、古典と、常識とを詰め込んでくれたに過ぎなかつた。誰も一語『あの太陽を見よ』『あの月を見よ』。と教へてくれるものはなかつた。

即大自然の調和の美と悠久との姿を凝視せよと啓示してくれた人はなかつた。それほどに吾人の生存競爭は激しく、吾人は大自然に住みながらも大自然と離れて生活してゐることに氣が付いた。唯自然科學者と農民達がその幾分かを離さずにゐた。

我々は自然に還らう、そして一切の虚偽をなげうつう、そしてそこから再び出直さう、こう思ふのである

×

右大臣のとがめに自ら身を退いて、須磨明石の濱に流謫の身となつた光源氏は幾度須磨明石の秋月に對して、そのいとしき人々への愛苦離苦の涙を催されたことか。

德大寺入道實定卿は、福原の新都より舊都の月を戀ひつゝ、御姉大宮を訪ひ奉つて、

ふるき都を來て見れば
淺茅が原とぞあれにける

月の光はくまなくて
秋風のみぞ身にはしむ

と今樣にうたひすまして、大宮始め御所の女房の袖をしぼらしたのも、その荒れ果てた都の對照は秋月であつた。

仲國は高倉帝御寵愛の女房小督の殿のかくれ家を探しに嵯峨の奥にわけ入つたが尋ねあぐんで月のあかさに駒の進むにまかした。一方小督の殿は明日より出家の名殘に、あかき月にそゝのかされて、想夫戀を彈いて遂に仲國に尋ね出されたのであつたと云ふ。その夜の秋月はいかばかり隈なかつたであらうか、

明月や池を巡りてよもすがら

と詠んだ俳聖芭蕉は、月の心に吸ひつけられて、家へ歸ることも忘れ、終夜池のまはりを巡つては佇み、佇んではめぐり、池に寫つた月に見入り、仰いでは亦本物の月に見入つて、夜の更けることも知らなかつた。その月も夏から秋にかけて月明星稀。烏鵲飛南。と陣中に槊を横へて、明月を賞でた魏の名將曹操の心事を偲べは嬉しくなる

獨坐幽篁裏。彈琴復長嘯
深林人不知。明月來相照

は王維の詩と思つた。

こほろぎ（童謡詩）　高橋亘

八幡様の
御神木で
フクロの
鳴く
月の晩

村もしんと
靜まって
土間で
こほろぎ
鳴いゐる

磐新歌壇

小山田・滋選　飯島匡孝

二百十日

○稻の葉の葉なりさやけし・このひと日、安けくあれと釜と語るも

○雲の色風の音にも憂なし、二百十日の畫たけにけり

○しぎやきの畫餉は甘し皿更へて、たすきの妻に明るく物言ふ　（評、良し）

○雲あしはやゝ早けれど事もなく、二百十日の日はくれにけり

（評、各首とも稚き作なれど、素直なるが良し）

時代警語

○凡そ人の一念の不善も必ず天に通ずるの理あり、天は高きに居て低きに聞くと云へり上天を欺くべからず、畏るべし、人を欺けば其の禍顯はるなり……（貝原益軒）

拈華微笑

◇國際的なのやロ本選手權保持者が登場。待たる入山の快試合

◇秋空に銀翼を輝かして松島の郷土訪問、思ふだに胸が躍る

◇繭高と匡救事業で地方農家の懐ろも小春日和

◇朝毎のラヂオ體操に吐く息白くなつて來た

漫筆餘瀝

小野生

▽奥州には隱れたる道義の泉あり△

古より奥州は一山百文の冷罵を受け、或は奥州の喰ひ倒れとの惡評さへ受けねばならぬ時代が餘りに世間的に長かつた事を遺憾とする、素よりその出所進退が如何なる根據ありしかは知るに由なきに見ても、唯理由なき惡口雜言として、何等の價値なき事を認むるものであるが、少くとも如斯評語の流布さるる以上吾々奥州人の最も檢討を必要とする所であると思ふ。

然るに事態はこれと正反對に人倫の生きた手本として千歳に垂れ可き價値の存する物語りを發見する事が出來たのに驚歎を禁じ得ざるものがある、それは吉田絃次郎作の『出陣繪卷』の內容である、勿論脚本ではあるが誠に能く彼の冷罵をして陰若たらしむるに十二分であるを痛快に心得るものである。

所でその筋は承治四年の秋と云ふから今より千年以上も前の事であるが奥州の探題藤原秀衡の許に七年間も永い間食客となつて時機の到來を待つた、源九郎義經が、兄頼朝の擧兵を聞いて出陣せんとするその時であつた。秀衡は如何なる理由か源九郎の此出陣に對して一兵卒もかそうとはしなかつた。

この時に當つて源九郎が奥州入りの當時より主從となつて居た。信夫藏司元治の子繼信、忠信の二子があつた元治は兩兒の幼い時に死亡しその後を引受けた、未亡人滾篠は亘理十郎清綱の娘だけに、壯丁に達した許りの二兒、殊には兩名共に新婦を迎へ立て（繼信の妻小松忠信の妻小秋）の二兒を出陣せしめようと決心したのであるが、七年間と言へば決して永い歳月ではない然るに主君の出陣に際して郎黨の尠いのと秀衡の意向の曖昧なるに業をにやし一見のみか二兒迄も之を戰場に送らうと決心した、その氣丈さは之れが大義の精神でなくて何であらう、更に出陣に望むでの二兒への訓戒に『母ありと思ふな、妻ありと思ふな、死所は唯戰場あるのみと心得よ』と肅然として言ひ放つた、これ忠誠の流露でなくて何であらう。

この女丈夫によつて鍛練された、繼信、忠信の二子は戰場にあつて能く戰ひ能く是の誠忠を致した事は正史の報ずる所に依つて明瞭である、然かもこの忠臣義士の源泉は奥州に發して居る、この兩子の道義的活躍は日本魂の精華となつて爾來幾多の鴻業を止めたであらう。

一山百文の譏、奥州の喰倒れの冷評、これ何物の惡戯であらうか。茲に至つて誠に根底のなき囈語に過ぎざるを笑はざるを得ぬ。

昔から英傑必らずしも道義の人でない、濱篠の如く烈々たる道義心に燃えた、女丈夫は、實に稀れであつて、兩兒がこの母に育まれて其終りを全ふするに至りたる事は、何と云ふても奥州の誇りでなくてはならぬ

筆者は脚本にもせよ、此壯快なる筋書を見て滿喫を禁じ難くこの文を草するに至つたのである。

講談　お蘭陀お蝶

（162）　渡邊默禪作　布施長春畫

『今晩は病氣のことでございますし、是なり御免を蒙りまして臥せりたうございます、いづれ明晩からあらためて、あの御腰元がはりにエへ』

『えゝ、そりやア最う、キイキイが不快いといふのに、飛んだ腰元だが我君さまには御寢なられませう。ドトンと來るにも及ぶまいから、結構々々、明晩からで遲くはない、ちあア姐さん、可いかい、屹と言葉をの……いや〳〵操を汚すことになつたら、それとしても同じ事だ、成程うんといつたら、お金に困らぬ人のことだから、手先や岡引に大枚の袖の下を使つて此の体を庇つて呉れるでせうがそんな淺猿しい境界に落るのは死んでも可厭なことだと云つて一寸遁れに彼箇約束をした上からは、弱味に突込まれた此の身、兎脫けようとしても拔けられることではない、寧そのこと目を瞑つて……いや〳〵、そ

れでは格さまに申し譯がない、ア、格さま、格さま！門郎は〳〵、私がこんなに苦惱をしてゐることを、草葉の蔭で御存知でございますが、ア、お聞がせ申したい、最う一度逃ひたい、逃ひたい、最う一度逃ひたい、逃ひたいまよつては居らぬ甚麼事あつてもそのお膝の上で、思ふ一旦は何處ぞ相應なお方や、尼寺に落着いて此の髪をおろした上供養の塔婆を建て！』

いろ〳〵と悶えて、とう〳〵大鹽さまの御遺言を果さなければ、此の度の戰爭にお討死をなされたお方や、其の夜は涙に責めぬかれて交睫ともせず嘆き明した。

×

翌日である、此の有馬溫泉開闢以來、是が破天荒の珍客が舞込んで來た。

それは阿蘭蛇國のキャプテン、ダニールリンデンの差向き思案に惑ふのは身に降りかゝる二つの問題である

『湯女になると匿まつて遣置いた、上陸後互市交易が濟むと船長は必らず江戸へ出府して將軍家へ貢物を献上する、是が毎年の例であつた。道中は當時の事であるから陸路の往復に約三月を費したといふ。

阿蘭蛇の黒船が長崎について時の模樣は前に述べて

一行であつた

お話（エヂソン）工學博士高津清

△六、二〇A　コドモの新聞

關屋五十二

△六、二五　英語講座（初等科）岡倉由三郎

△六、五五　カレント、トピックズ　ハロルド、バーマー

△七、〇〇A　ニュース　氣象

△七、三〇H　講演（超短波の性質と其の利用に就て！）東北帝大助教授工學博士字田新太郎

△八、〇〇A　洋樂の夕

△九、三〇A　時報

△九、三一A　日本棋院秋季東西大手合戰續ニュース　氣象

ラヂオ

…二十一日〔金曜〕…

仙臺　JOHK

△前六、〇〇A　ラヂオ體操

△六、三〇　秋季國文學講座（奥の細道）　荻原井泉水

△七、〇〇A　ラヂオ體操

△九、〇〇A　氣象

△九、一〇　料理献立（鰯のつくね揚げ烏賊松茸の青和へ）佐藤つぎ

日用品値段

△一〇、三〇A　家庭講座

△正午A　時報　氣象

△後〇、〇五A　少女歌劇（七夕船）　寶塚少女歌劇花組生徒　同聲樂部專科生徒

△〇、四〇A　ニュース

△一、五〇　五、三〇A　運動競技（六大學野球リーグ戰試合狀況）

婦人講座（水郷の秋を語る）松川二郎（野球なきときのみ）

△三、四〇A　氣象

△四、〇〇　ニュース

△六、〇〇A（子供の時間）

丈夫デ安イ　二重ガラス
金銀高價買入
金光堂時計店
平・五　電一九五

御料理　八千代
平町田町
電話三七五番

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

藤沼醫院
平町紺屋町電五〇七

秋の櫛子と毛布
旅行用トランク・ステツキ
ハンドバツグ・お化粧用品
◎廉價な優秀品◎
秋向お子樣の服裝用品種々豊富に取揃へました
中野洋品店
平二町目・電五十三番

cafe
喫茶と食事
番六四話電　隣南館樂楽

淋藥界の最高權威
無効返金（一日間服効なき時は殘藥引替に全部返金す）
一週間…赤箱—金五圓　黒箱—金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳祕藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渴に奇績的効果あり、どんな頑固な痳疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく、注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。
別府皮膚藥　金三十錢　金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園　岩里天然堂
平町三丁目北裏通り
代理店　渡邊いと
（特約店募集）

治病器の權威
オキシヘーラー
オキシヘーラーはカクマク、ソコヒ、トラホーム、中耳炎、蓄膿症、盲腸炎、腹膜炎腎臟病、骨膜炎、脊髓カリエス、ルイレキ、婦人病、等斷じて手術の要なく、心地よく治り、其の他の難症病疾も必ず治癒す。而して治りの早き何れも在來の療法に比して實に數倍何卒御來訪御實驗のほどを。
◎尙當實驗所にては當分眼病の方に限り三日間無料にて治療す、御試しを乞ふ。
平町田町大通り四九（三二三肉店前）
オキシヘーラー平實驗所
原田良節

毎度御ひいき
有難ふ御座ゐます。
うなぎ御用命は
うなぎ奴
平町田町（電話二二番）
ホール御座敷の設備あります。皆樣の御立寄を！

斷然値下斷行
上酒御通し付　十二錢
ビール御通し付　卅五錢　卅五錢
定食　卅五錢　十五錢　十二錢　十錢　十錢　十錢　十錢　十錢　十錢　十錢
お茶お天親牛カガ支うしぞ
平驛前通り　梅月食堂

オリンピックの序奏は

增田選手を迎へて 入山對日立陸上競技

同廿三日併せ催さるる野球庭球

地方運動界空前の豪華版

近來各炭鑛に於けるスポーツ熱は眞に物凄い迄に高潮されて各社其の設備を誇る競技場は公休日毎に各選手の跳躍により活潑々地の壯快な場面を展開するが常で今や絶好のシーズンに入り來二十三日の日曜日に於ける入山の如き地方に於て容易に見られぬ次のやうなスポーツ一大豪華版を現出する。當日の天候にして支障無くんば如何に觀衆をして熱狂の沸騰點に導く事であらうか。

快試合の序奏は 大倉との野球戰

豫想さるる大接戰

輝かしい當日の入山スポーツは午前八時からの對大倉本社野球戰に其の幕を切つて降される、入山の陣容が

野土本本越井木藤間田橋
青金坂鈴大白高佐佐投右
投捕一二三遊左中右
（外本塚）

導くに充分なるものがあらうと想像される

對日立庭球

野球より一時間遅れて九時から開始

野球より一時間遅れ九時から始められるのが對日立の庭球である、入山のメンバーは次の如く之亦大接戰を豫想されてゐる

（立岩）花倉（佐比）々佐（長谷川）勇（松本）
（小泰）林樂（小福）高原
補欠（比邊）佐見（渡邊）雅（若松）（竹原）

前記二競技が終つて午後一時から愈々オリンピックの增田選手が登場する日立との陸上競技である。芦川正信氏審判長の下に行はれる競技は

百米、八百米、五千米、二百米、走高跳、千六百米、四百米、走幅跳、八百米、

の十一種目で日本選手權を有する百、二百の西田、四百の入山蒲田主將に對し百二百、四百、八百に於ける日立增田主將の活躍振りこそ見ものである

增田選手が登場し 午後一時 愈々競技開始

活躍を期待さるる

選手權保持者西田、蒲田君

（日立製作所）陸上競技部長神谷信夫、監督和田伊佐男、主將增田磯（入山）年中行事第一部長芦川正信、監督中村豊主將蒲田久之助

庭球界の 强豪を網羅

廿三日の東北大會

磐城軟球協會主催第五回關東北庭球大會は愈報の如く二十三日午前八時から磐中A・Bコートに於て開催されるが申込中には左記の如く各方面の强豪を網羅し多大の興味を惹いてゐる

（東京市役所）篠原、土屋（東京クラブ）林、關口（仙臺）宮崎、奥津（好間）鈴木、木田（平倶）藤田、大坪、高木、佐藤、馬目室越、（法曹）大内、小野

磐城選手權 中部遠征

二十三日午前中郡山市に於て安日平國体事務所樓上の在來中、商工、OBと調査協議會は二十四日に延期された

午後から福島に於て福師、福中と試合をなすべく目下猛練習中である

C.榊原富夫、F.阿部喜八郎、會川正四郎　G.遠藤四家逸男

第一運動會

明廿一日開催

平第一小學校秋季運動會は明二十一日開催するが左記番組中消防競爭は初めての催しである（數字は學年）

唱歌、合同體操234
紅白毬入れ12　子供の汽車2　カツボ〜〜兵隊さん1　アスレチックダンス6　野球ダンス5　國旗と軍旗1　帽子取4　擬馬同5高　ラヂオ體操34　キャプランボール高2　綱引高1　消防競爭高2

今月中着手

新川惡水豫防工事

けふ起債認可指令さる

二萬三千圓の匡救事業として今月中旬起工の豫定であつた七百四十二米の平町外二ケ村新川惡水豫防改修工事は五千七百圓の起債認可あり更に一兩日中工事と工事指令の遲延に依つて未だ着工出來ず過般登錄した人夫二百九十二名から遲

日之が促進方の懇請あり組合でも諸般の準備を進める一方鋭意認可指令の促進に盡力した結果今二十日起債認可指令ある旨の内報あつたので遲くも今月下旬には着工されるであらうと

（パラツシュー等）
一、七、八日　船橋學校主催にて申込に應じ同乘一回五圓

近來頓に溫い 農家の懷ろ具合

滯納整理遽に捗どる

縣稅務平出張所管内六年度縣稅後期滯納者飯野村外八ケ村四百十三件、四百五十餘圓に對する差押へ物件の公賣は昨十九日午後一時から同所で行はれる筈であつたが之より先最近の繭高や土木匡救事業の爲頓に活氣を呈して居る各農村の滯納者は同日迄に八割以上を納入し曾て無い好成績を收めたので公賣を中止したが二十一日に執行する小名浜町外三ケ町村の七十四件と二十五日山田村外二ケ村の百四十八件も恐らく同樣であるまいかと至極樂觀されてゐる尚七年度前期分は十日から差押へを開始したが之亦非常な好成績を收めて居ると

生産檢査 取締反對

三郡組合木炭起つ

濱三郡木炭同業組合では此程郡山市で開かれた縣下木炭組合長會の生産檢査縣移管反對決議と呼應して近く家宅侵入器物破毀で告訴される旨の報あるが去月五圓この金額二百六十五圓、小作料百二十圓、宅地租四十圓、合計四百二十五圓の損害を蒙つて居るばかりか取り毀しに向つた一昨十八日には鈴木一味のため胸部其他に全治一週間の傷を受けたと今二十日傷害罪として鈴木を平署へ告訴した

來月上旬を期して 松崎君の訪問飛行

コース其他豫定決る

平町出身二等飛行士松崎二郎君の郷土訪問飛行は次の如き豫定の下に愈々來月四五日頃決行されると

一、四日　午後三時頃船橋より空輸（愛機乙ひばり號、誘導機アブロ機）四倉に着陸す。

一、五日　午前七時頃より二機揃つて平町上空に現れ愛機は訪問飛行誘導機は平町消防組頭同乘にて火防宣傳ビラを撒いて四倉着陸、ひばり號は其れより相馬から宮城縣境迄火防宣傳ビラを撒き乍ら原の町に一旦着陸ガソリン補給後福島に向ひ福島グラウンド着陸再びガソリンを補給して會津方面より白河、石川と縣下を一般を火防宣傳と訪問を行ひ夕刻四倉着陸

一、六日（大會）午前十時頃より平町上空にて高等に於て診療を開始した處午後四時まで七十餘名が殺到み等）曲乘（繩梯子、翼上起立、翼端起立、女流飛行（愛機の宙返り錐揚げ中には數年間の中風患者火防宣傳ビラを撒いて四倉着陸、ひばり號は其れ

滿洲行

藤田中尉

第九十九信

草が半ば青々と生ひ茂つて居る、今日執行される人はどんな履歷の人で幾人ですか、と聽くと

◇一人は李○　章と云ふ奴で、他は李海新です。李の旗下に大馬の勢をとるが○章は李海○の兄で反吉林軍の親玉である、弟李海○がチチハル奪還を策し日本軍に頑强に抵抗したが其參謀役を勤めたのが實質的には兄のこの李○章なのです惡運つきてか先日遂に捕縛され今日まで獄中につながれて居つたのです。

◇李輔○は元　の陸軍大佐で歩兵團長の榮職に在つた者曾つては萬福麟時代に彼の怒に觸れて獄に在ることは三年將來は誓つて萬福麟名程右往左往して居るのみと、この前は銃殺でしかつた、徒然のまゝ私はら本日のは多分刀で首を切れば、又何一つの仕掛もない、たゞ水流の邊りがチチハル奪還を策し日本軍に頑强に抵抗したが其參謀役を勤めたのが實質的には兄のこの李○章なのです惡運つきてか先日遂に捕縛日立增田主將の活躍振りこそ見ものである

◇李海○の兄で反吉林軍の親玉である、弟李海○の日本回の事變起るや彼は馬占山と氣脈を通じて反滿洲軍行動を濃厚に持續したために捕へられて同じく獄中に暗い生活をして居つたものです

◇外の七名は　全部馬賊場合に我國で○す方法はんだのだと威張つて居たもの

◇私は　西大橋河畔の刑場林少佐に○○す

◇一人は李○　章と云ふ奴で、他は李海新です。李の旗下に大馬の勢をとるが○章は李海○の兄で反吉林軍の親玉である、弟李海○がチチハル奪還を策し日本軍に頑强に抵抗したが其參謀役を勤めたのが實質的には兄のこの李○章なのです惡運つきてか先日遂に捕縛日立增田主將の活躍振りこそ見ものである

◇李輔○は元　の陸軍大佐で歩兵團長の榮職に在つた者曾つては萬福麟時代に彼の怒に觸れて獄に在ることは三年將來は誓つて萬福麟名程右往左往して居るのみと、この前は銃殺でしかつた、徒然のまゝ私はら本日のは多分刀で首を切れば、又何一つの仕掛もない、たゞ水流の邊りがチチハル奪還を策し日本軍に頑强に抵抗したが其參謀役を勤めたのが實質的には兄のこの李○章なのです惡運つきてか先日遂に捕縛日立增田主將の活躍振りこそ見ものである

◇外の七名は　全部馬賊場合に我國で○す方法はんだのだと威張つて居たもの

◇李輔○は元　の陸軍大佐で歩兵團長の榮職に在つた者曾つては萬福麟時代に彼の怒に觸れて獄に在ることは三年將來は誓つて萬福麟名程右往左往して居るのみと、この前は銃殺でしかつた、徒然のまゝ私はら本日のは多分刀で首を切れば、又何一つの仕掛もない、たゞ水流の邊りがチチハル奪還を策し日本軍に頑强に抵抗したが其參謀役を勤めたのが實質的には兄のこの李○章なのです惡運つきてか先日遂に捕縛日立增田主將の活躍振りこそ見ものである